

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102087		
法人名	有限会社 ひよこ		
事業所名	グループホーム コケッココー		
所在地	岐阜県岐阜市鏡島南1丁目11-7		
自己評価作成日	平成26年10月25日	評価結果市町村受理日	平成27年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detai_2014_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2170102087-00&PrEfCd=21&Versi.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	平成26年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設して今年で13年目、グループホームとして認知症介護に携わり多くの看取り介護もさせていただきました。職員も様々な認知症高齢者支援の中で多くの学びを積み重ねて成長してきております。「その人を知りその人らしい暮らしを共に楽しみたい」との理念の下、我グループホームは支え合う重要な基盤は、やはり人なので関わる職員の成長を最重要に考えております。言葉だけでは通じないお互いの想いやこちら側のコミュニケーション能力もあったり、利用者様お一人お一人の理解はとても難しいのですが、終の棲家を地味であっても何気ない普通の暮らしと一緒に楽しめる関係づくりを毎日様々に配慮し研鑽し挑戦し続ける職員体制作りにも努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

民家を改修したホームであり、全体に温かく、家庭的な雰囲気が感じ取れる。訪問時、利用者の方々と共に昼食をいただいたが、どなたもとても明るい表情で、食べることだけでなく、人と話すことが楽しいといった様子が伺えた。管理者の「人間関係を醸成することがなによりも重要」との考えから、リーダー会議を充実させることや大人の部活と称して職員の親睦を深める機会を持つこと等の具体的な取り組みの成果が、日常生活の中での利用者の生き生きとした様子に現れていると感じ取れた。また地域とのつながりを深め、地域の行事に参加するだけでなく、事業所に地域の子どもたちを招いての行事も行われている。さらに、災害時の連絡網に地域の方も入っていたり、避難時の役割を担っていただけのような取り決めもされている。長年勤務している経験豊かな職員もおり、利用者の気持ちを理解しやすい状況があり、利用者の目線での自立支援が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個々に意識を持てるように、毎月のミーティングにおいて理念を読み上げていますが、利用者の重度化により日々の介護に追われ、全職員が実践しているとは言えないがリーダー職が実践しながら育成に繋げている。	毎月のミーティング会議録の初めに理念を記録している。また理念を職員皆で確認した上で、各種議題が討議されていることが伺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏休みには子供たちや親御さん、運営推進会議の委員さんや利用者さんがリラックスして楽しんで頂いている子供会との交流会が定着してきている。	町内会に入会しており、地域の行事(清掃やおひまち等)に参加している。また事業所の行事に地域の方々を招き、交流を深める等地域に開かれたホームとして定着している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に利用者にも出席していただき、テーマを掲げてご自分の意見を話してもらって認知症の方の姿をみてもらい、理解を得る場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況報告書を説明、ホームの状況を知っていただいた上での意見や助言を支援に活かせるように検討している。しかし、家族の会議の参加者が十分ではない為、家族からの意見・助言を得る事が難しい。	運営推進会議は定期的開催され、役所・地域・家族の代表の参加のもと、意見交換が行われている。会議への参加を促すため、「地域の子どもたちと遊ぼう」という行事と併せて開催する等の工夫をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢福祉課からの紹介である一人の入居者の家族支援には共に協力体制に取り組んでもらっている。また、介護保険課の方には、運営推進会議内で相談、意見や助言を頂いている。	運営推進会議には介護保険課だけでなく、地域包括支援センターからの参加もあり、意見交換が行われている。日頃から入居者の状況について相談し、助言をいただく等の協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「プライバシーの保護、身体拘束をしない」を常に考え、日頃のリスク管理における報告相談においても職員間で随時意見・助言を行い、新人職員にも理解できるように説明をしている。	利用者の視点に立ち、利用者主体の介護を目指して話し合いが行われており、その考えが職員間で共有されている。転倒、徘徊等のリスクについて話し合う中で拘束の対象となる具体的な行為についての理解が図られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止共に、全職員に周知出来るように日常の業務の時や定期的にも内部研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用が必要な方との関係者との連絡・調整を支援している。内部研修もしたり、活用に関して学ぶ為に、リーダー格の職員はNPO法人主催の説明会にも参加して知識向上に努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、契約の説明はしっかり時間をとって説明をしている。改定の際には理解・納得を得られるように事前に口頭かつ文書において説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望等は職員に伝えられる関係作りに努めており、要望や意見があった際には速やかに対処出来るように職員間で情報を共有、解決策の意見交換ができる体制をとっている。	利用者一人ひとりとのコミュニケーションができていて、利用者の意見、要望は速やかに検討されている。家族の高齢化の進行に伴い、家族の意見収集は日に日に困難になっているとのことであるが、できる限り把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案をその都度リーダーから管理者に伝わるように体制を整え、多くの意見が聞けるように毎朝のショートミーティング・全職員ミーティングにおいて意見交換を行っている。	3人のリーダーを置き、職員の意見や提案が管理者に届きやすい体制ができている。管理者には職員の意見や提案を真摯に受け止める姿勢がある。	ケアの実践力の育成に力を入れ、成果をあげつつあるが、今後職員が運営を見渡す力をつけ、提案力を身につけていけるような人材としての育成に力を入れていただくよう期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々のライフワークバランスや適性を把握し、能力の向上へ繋げられる希望シフト受け入れや助言・指導を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は個々の能力を把握し、外部研修受講の支援している。受講した職員は内部研修において研修内容を発表し、全職員のスキル向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修で得た他事業所の実績情報を参考にし、ホーム独自のサービスを見いだせるような取り組みをしている。又経営者研修の一環である現場体験受入をしたリグループホーム協会にも会員として参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーションを通して、ご本人の思いや希望を聴きとりながら、安心感が得られる環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや性格・本人との関係性を理解し、受け入れながら要望等を受け入れ、信頼関係が築けるようにコミュニケーションを取るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来る限り多くの関係者等の話しを聴き入れ、本人の状態状況を見極めながら、その人その人に必要な支援が受けられるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	協働生活を楽しんでもらえるよう、各職員と各利用者との相性も含めお一人お一人の関わり方を常に検討し続けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に対する本人の思いや希望を伝える仲介役になり、面会等で関わりを持ちやすいような環境作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ほとんどの方が心身の変化や家庭の事情により入所前の馴染みの関係を継続するのは困難になってきているが、可能な方には家族の協力を得ながら継続の支援を行っている。	家族や知人の方が来訪された時は、写真を撮らせてもらい、メッセージも添えてもらって部屋に掲示する等の工夫をして馴染みの人の関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が上手く関わりが持てるように利用者同志の関係性を理解と支援できるよう職員育成に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	数年前にホームで看取った方の家族の身体の相談をしに来訪され、お話を聴き、助言等の支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	寄り添って生活することで思いや希望を感じ取り、出来る限りご本人の希望に添えるように支援している。	訪問時、食事の際に車椅子で食事をしてもらった利用者の姿勢の傾きをそっと声かけしながら直したり、食事を促したりする等会話を通して利用者の意向を把握し、希望に沿うべく対応している様子が伺えた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に出来る限り多くの情報を得られるように努めている。また、入居後も同居家族以外の方からの情報も得られるようにしており、知り得た情報はケアに活かせるように全職員に周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察の中で得た小さな気付きをケアに繋げられるように、情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員が利用者一人一人を把握できるように情報交換を行い、ミーティング等で職員から得た意見・提案をケアに取り入れた介護計画をケアマネージャーが作成している。	ケアプランに基づき、ケアの実践が行われている。利用者一人ひとりの実践状況を把握し、その情報を職員間で共有している。また独自の書式による健康管理記録を持つ等工夫している。ケアプランの見直しはチーム一丸であったり、利用者、家族の意向を踏まえ、各職員の意見を反映し作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきや工夫の報告は朝ミーティング内で行っている。情報の共有には連絡ノートを活用して、再確認の為に口頭での伝達も行っている。個別記録の記入は、慣れない職員もいる為、記録の内部研修を行う予定である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズには、迅速かつ柔軟に対応できるよう努め、法事や葬儀の付き添い、入退所の付き添い等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	喫茶店や買い物と一緒に出掛けている。以前は商業高校の催し物に行っていたが、利用者一人一人の認知機能や身体機能の低下により人混みに出掛ける事が困難になってきている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望により利用者全員が事業所の協力医をかかりつけ医とされている。また、必要時には認知症専門医の受診し、かかりつけ医との連携を支援している。	家族との話し合いの上で、利用者全員のかかりつけ医を事業所の協力医としている。利用者の心身状況、服薬コントロール及び受診の状況について情報交換を行う等密に連携している。他科受診について必要な場合には家族の協力のもと支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隔週で訪問看護師に日々の状態を報告・相談、健康管理・医療面に関するケアの指導・助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護サマリーを医療機関に提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の意向を聞きながら、早い段階で話し合い説明を行っている。状況に応じて看取り同意書を作成している。当ホームで看取りを経験した職員も増えてきており、安心・安楽な終末期を過ごせる支援を行っている。	看取りに関する指針、手順書、同意書があり、家族に説明し、意向を聞いている。終末期の看取りに際して、家族に対するメンタルケアも含めて医師の指示のもと全職員で支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践力を身に付けられるように内部研修を定期的に行っている。マニュアルの閲覧は全員が行えていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定火災避難訓練を年に2回利用者も参加して、運営推進会議に合わせて行い、地域の方々に避難後の利用者の見守り等の具体的な協力をお願いしている。	緊急連絡網に地域の方に入ってもらいだけでなく、避難時の役割(避難した方の見守り等)までお願いするなど地域の方々の協力のもと災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーとリスク管理支援とのバランスに戸惑う職員もいますが、常に敬いの気持ちを持って接する事が出来るように、助言・指導に努めている。	訪問時、食事の際に他者にはわからないように利用者の耳元で優しく言葉かけをするという様なさりげない支援を行っていた。一人ひとりの人格を尊重した支援が展開されている様子が伺えた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉に出来ない思いもくみ取れるようなコミュニケーションに心掛けている。それぞれが自己決定出来るように言葉かけや関わりが持てるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務とのバランスを考えながら個々の希望を優先し、個別ケアを基本とした柔軟な対応が出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝お化粧が出来るように準備をしたり、希望される方には毛染めを行っている。洋服の組み合わせ等も支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下準備をしていただきながらどのようにして食べたいかを聞き、意見を取り入れたメニューを「おいしい」と喜んで召し上がって頂いている。	経験豊富な調理担当の職員が利用者の好みや味付けをメニューに取り入れて調理している。訪問時には、にぎやかで楽しげな語りのある食事の様子が伺えた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増減を見ながら必要摂取量を検討し、健康管理も行っている。また、水分摂取量には十分気を配り、1日の最低摂取量を決めてケアしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医の助言・指導を受け、個々に合わせたケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄サインやパターンを把握、可能な限り一段階上の排泄を目指して常に話しあい・実行し、出来る限りの努力をしている。	排泄がスムーズになるよう野菜や水分の摂取量、昼間の運動量も考慮に入れている。また夜間帯についてもできるだけ排泄自立に向けた支援ができないか検討が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を目指して食事内容や水分摂取の配慮を続けている。便秘を解消できない方には、訪問看護師に浣腸を行ってもらう等、他にお薬の服用法の指導・助言を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お一人で入られる方は午前中に入ってみえ、ゆったりとした入浴で皆さん満足されている。午後入浴は介助が必要な方であるも、お一人お一人のタイミングに合わせて入浴を楽しんで頂いている。	入浴中、身体保持の不安定な方に浮き輪を活用する等してスムーズに入浴ができるよう工夫している。マンパワーに余裕があるので利用者の希望に沿った入浴が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠出来るような環境作り心掛けています。夜間の頻尿による睡眠不足の方には、日中に休息できるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医からの薬剤情報を始め、訪問看護師からの指導・助言、インターネットで情報得て薬に関する理解に努め、全職員で経過観察を行えるように情報の共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「やりたいこと」「できること」で日々楽しまれている。認知症状の意欲低下により何もしたくない方にも、役割りを持っていただけたりと色々提供しているもどれも上手いかなない事が、課題になっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や喫茶店等と一緒に掛けている。寝たきりで外出の困難な方は、外気浴・日光浴の支援を行っている。家族と出掛けられる時には、排泄に関しても安心して過ごして頂けるように、着替えを預けている。	南向きで日当たりの良いベランダがあり、外出困難な利用者も日光を浴び、外気に触れ、自然音を聴くことができる。家族との外出に関して十分に助言をする等して支援している。	利用者の重度化に伴い、外出の機会が少なくなっているとのことであるが、身近な場所への外出を増やしたり、近隣、敷地内の設備やベランダ等をさらに活用する等して、日常的な外出支援の充実に向けた取り組みに期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状の利用者全員が、金銭管理が出来ない事もあり、トラブル回避の為、お金の所持は遠慮していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が自ら電話をされる事が出来ない為代わりに電話をしたり、手紙を読み聞かせたり、代筆したりと個々に合わせた支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く感じていただけるように、好まれる演歌を流している。また、玄関の飾り付けは四季を感じられるように工夫している。	階段には滑り止めの他、反射板が張り付けてあり、階段の上り下りに役立っている。居間の南側に縁側があり、落ち着いた雰囲気醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人が落ち着ける場所づくりや快適な時間を持てるように、居間や食堂の席を常に考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が混乱しないように家具の持ち込みをされたり、家族写真を始め今まで使ってみえた馴染みの物を活用して、安定した日々を過ごしてもらえるように支援している。	もともと個人の住宅であったことを最大限に活用し、一部屋一部屋に個性豊かな生活感を感じ取れる居室であり、自宅での生活の継続という観点から使い慣れた品々を持ち込んでいただき、落ち着いて居心地良く過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険箇所の点検、環境整備には常に目配りをし、不具合を確認したら迅速に対処している。また、トイレや自室が分かるように貼り紙をして、自立した生活が送れる工夫を随時検討している。		